

ようこそ学長室へ 259

～日常をつくる、縁の下の力持ち～

日中は汗ばむ季節となって参りましたが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。さて今回のお客様は、メディアセンター職員として学生の窓口対応、パソコンなどの情報機器やネットワーク環境の構築と保守、ユーザー管理、セキュリティに関する調整など、多岐にわたる業務を支えてくださっている門間久忠さんです。本学のお勤めになるまでの経緯や仕事で大切にしていることなどを伺いました。

初めに幼少期からここまでの経緯を伺うと「生まれは母の実家のある茨城で幼稚園に入るまでは父の職場の関係で京都にいました。幼稚園入学時に多治見に来てそこからはずっと多治見です。大学では情報通信工学を専門的に学び、ガリガリの理系学生でした。卒業後は自動車関係の開発チームで仕事をしていました」と。具体的な仕事内容は「日産やトヨタで車のタイヤ周りの部品開発やトラックの振動開発などをやっていました」とのこと。情報機器に精通しているのは「専門的に学んだわけではありませんが、開発チームでの研究を通じて、パソコンやサーバーなどを扱う場面が多々あり、必要に応じて自然に身に付いていきました」と実学を通じて体得された知識や技術であることを知りました。

仕事で常に気を付けている点を伺うと「上司からいつも言われる『次につながるような指導』ができるように心がけています。学生や教職員の皆さんから様々な依頼があった時に、分からないことに答えるだけでなく、原因と対処法も必ず併せて伝え、組織全体のメディアに関する力を高められるようにしています」とのことでした。またメディアの仕事以外では「オープンキャンパスの来場者に接する学生スタッフの姿をみていると、大学を愛する気持ちやホスピタリティの素晴らしさが伝わってきます。私自身、対人関係が苦手でコミュニケーション能力も高くありませんが、学生たちを引っ張って行けるように、苦手な力でも高められるように心がけています」と。モチベーションの源は「学生たちの笑顔ですね。あの子たちのためだったら頑張れる」と少し大きな声で明るく伝えてくれました。

常日頃、パソコンなどに疎い私は、些細なことでも門間さんやメディアセンターの皆様にお世話になっています。毎回、膨大な仕事がある中で、嫌な顔一つせずに、迅速かつ丁寧に対応くださる姿に感謝の気持ちでいっぱいです。今後は甘えるばかりでなく、自分自身で問題の対処法を身に付けられるように心したいと思います。#学術

取材後記：とてもにこやかに丁寧に話をしてくださり、終始明るい雰囲気の取材となりました。門間さんが学生の皆さんから親しまれている理由の一つがわかりました。（き）



門間さんと